

## 普及活動情勢報告（令和8年3月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

### 後作オクラの安定生産に向けて ～後作オクラ現地検討会～



後作オクラの生産ほ場で  
話を聞く生産者

2月24日、黒潮町のオクラ生産者ほ場4カ所で、後作オクラ現地検討会が開催され、生産者8名、関係機関3名が参加しました。

農業改良普及課からは、今年度実施している新規有望品種の生育状態や気象条件に合わせた温度管理等について情報提供しました。

参加者からは、「燃油が高騰している中、加温温度はどの程度まで下げられるのか?」「生産者によって生育状況が違う理由はなにか?」といった質問がありました。

農業改良普及課は、今後も新規有望品種の生育調査や巡回を通じて、後作オクラの安定生産に向けて支援していきます。

### イチゴの最盛期に向けて ～JA高知県中村支所イチゴ部会現地検討会～



現地で意見を交わし合う  
生産者

2月25日、四万十市中村のイチゴ生産者ほ場で、JA高知県中村支所イチゴ部会現地検討会が開催され、生産者7名、関係機関4名が参加しました。

農業改良普及課からは、春先の栽培管理についての説明と宿毛のイチゴ生産者ほ場で行っている遮熱資材（クールネクスト）の実証ほの結果について報告しました。

生産者からは、「遮熱資材は梁に張るより被覆が良いのはなぜか」「遮熱資材はどの時期に使うのが良いか」などの質問がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関とともに、イチゴの安定生産に向けて支援していきます。

### 令和7年度の普及活動実績は・・・ ～第2回地区農業改良普及推進協議会～



会議の様子

2月25日、中村合同庁舎で、第2回地区農業改良普及推進協議会を開催し、生産者代表や関係機関等16名が出席しました。

農業改良普及課からは、今年度の活動内容や実績、次年度の取組方向について説明し、関係機関からは次年度の重点的な農業施策について情報提供がありました。

委員からは、新規就農者確保の取組内容やデータ駆動型農業に関する質問、集落営農広域連携組織の活動紹介がありました。

今後は、委員から出た意見を令和8年度の普及活動に反映し、地域や農業の課題解決に取り組みます。

## 女性の力で広がる産業を越えた学びと交流 ～一次産業女子交流会パートⅡ～



ファームヤマモトについての説明を聞く参加者

2月26日、四万十市のファームヤマモトで、農林水産業に携わる女性「一次産業女子」3名、関係機関4名が参加し、ファームヤマモトの取り組みについて研修しました。

農業改良普及課からは、農業分野における女性活躍の事例や農村女性リーダーの活動について情報提供しました。

林業や水産業の女性からは、農業分野における女性活躍の体制づくりが進んでいる点に驚きの声が上がりました。また、産業の枠を越えた連携の可能性についても意見が出され、活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も地域の女性の活躍を支援していきます。

## 道の駅を盛り上げよう ～「株式会社ふるさと市」野菜栽培講習会～



農薬の適正使用について説明する専門員

2月26日、道の駅よって西土佐の会議室で、道の駅内で農産物を販売している株式会社ふるさと市と出荷者協議会が共催で、野菜栽培講習会を開催し、生産者12名が参加しました。

農業改良普及課は、事前に生産者から預かった土の分析結果を基に、土づくりや施肥管理、農薬の適正使用等について説明しました。

生産者からは、「土づくり資材の施用時期はいつが良いか」「私の畑の土も分析をして欲しい」などの質問や意見がありました。

農業改良普及課は、今後も生産者の要望に応え、直販所の商品が充実するよう、支援していきます。

## 今年も美酒を！ ～富山酒米生産部会検討会～



説明を熱心に聞く生産者

3月6日、四万十市大用集会所で、富山酒米生産部会検討会が開催され、部会員5名、関係機関3名が参加しました。

農業改良普及課からは、令和8年度‘吟の夢’栽培暦の変更点や育苗時の注意点について説明しました。また、JA幡東営農センターからは栽培計画書の提出について説明がありました。

部会員からは、「土づくり資材は何を使用すればよいか」「昨年は不稔が多かったが対策はあるか」といった質問がありました。

農業改良普及課は、今後も品質の良い酒米が生産されるよう、生産者の栽培指導に取り組んでいきます。

今年はどうやって切る？ ～土佐文旦せん定講習会（中村・大方合同）～



せん定方法について実演する  
普及指導員

3月13日、四万十市竹島の土佐文旦生産者ほ場で、土佐文旦のせん定講習会が開催され、生産者11名、関係機関4名が参加しました。

農業改良普及課からは、せん定の方法や今年の冬の気象について説明を行いました。

生産者からは、「ここに空間を作りたいけど、どの枝を切ればよいか」「自分だったらこの枝は切る、残す」「ここに良い結果母枝があるけど、機械の通り道できれいな果実ができないから切り戻したい」など意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関とともに土佐文旦の安定生産に向けて支援していきます。

猛暑への対策はどうする？ ～幡多地区ミョウガ勉強会～



実証結果を報告する  
普及指導員

3月13日、中村合同庁舎で、幡多地区ミョウガ勉強会を開催し、生産者6名、関係機関3名が出席しました。

農業改良普及課からは、今年度に行った高温対策技術の実証結果の報告と農作業安全、災害対策等の情報提供を行いました。

生産者からは、「ここ数年の夏場の暑さでは、高温対策を導入しないと栽培が難しい」との声がありました。

農業改良普及課は、今後も実証試験や巡回指導を通じて、幡多地区ミョウガの振興を支援していきます。